

平成 27 年第 1 回定例会 産業労働常任委員会

平成 27 年 3 月 10 日

谷口委員

2 点にわたってお伺いしていきたいと思ひます。

最初は、かながわしごと支援センターについてお伺いしたいと思ひます。

これまでも当委員会では質疑がなされていたわけですが、このかながわしごと支援センターは、国の方で各都道府県に対してモデルを示して、それを受けて本県で実施するということですが、本県独自の取組がこの中に入っているのかどうか教えていただきたい。

雇用対策課長

かながわしごと支援センターの本県独自の取組でございますが、若者や高齢者向け、求人開拓ですとか、県内中小企業の人材確保支援などの企業への働き掛けを実施すること、それから非正規雇用の若者を対象としたスキルアップのための人材育成を実施すること、この 2 点が本県独自の取組となっております。

谷口委員

求人開拓ということを実施するということですが、かながわしごと支援センターの事業として、高齢者についても求人の開拓をするという理解でよろしいんでしょうか。

雇用対策課長

県として新たに高齢者向けの独自の求人開拓業務を実施してまいります。

谷口委員

これは我が会派も本会議で高齢者の求人開拓については取り上げさせていただいたと思うんですが、これは具体的にどういう形でやっていくのか伺います。

雇用対策課長

今度設置を予定しております、かながわしごと支援センターに求人開拓員を置く考えでおります。この求人開拓員が企業を訪問して高齢者向けの求人を出していただく、開拓していくという、そういうことを考えております。

谷口委員

スタッフ的にはどれぐらいの体制でやるのか。

雇用対策課長

求人開拓員は 6 名を予定しております。

谷口委員

高齢者の方々の仕事探しについては知事に要望しております。そういう意味で我が会派としても本会議でも質問させていただいて、こういう形で今回もいろいろなスタッフでやるということについては大変感謝したいと思います。

このかながわしごと支援センターについては、とにかく高齢者の方も含め、県民の方々が生き生きと働くことができるようにしっかりと取り組んでいただくようお願い申し上げます。

最後ですが、電気自動車の地域導入促進モデル事業費について伺ってきたいと思います。

これについては、電気自動車の一層の普及拡大ということと、観光振興ということが目的になっているわけですが、具体的にどういった効果を期待

しているのかお伺いします。

スマートエネルギー課長

電気自動車は、ランニングコストが安いというメリットがございますが、一方で航続距離が短いという点もございます。そういう意味では、本事業では、走行エリアがある程度限定される観光地に電気自動車を導入するというような形のモデル事業を考えているところでございます。

具体的には、ホテルなどの観光施設に電気自動車を導入いたしまして観光客に御利用いただくとともに、事業者の方でも日常の業務の中で使うという形のシェアリングモデルを構築することで、通常のレンタカー、あるいは通常のシェアリング事業などよりも採算性の向上を図っていききたいということを考えておりました。電気自動車の普及、観光振興につなげていきたいと、このように考えているところでございます。

谷口委員

ホテルや旅館はどの程度の数を想定しているのか。それから電気自動車の台数を教えてください。

スマートエネルギー課長

具体的には、宿泊施設などで3箇所から5箇所程度、車両については5台から10台程度の運用、そういった規模が実現できればいいと考えているところでございます。

谷口委員

これは公募して委託をするということですが、こういった内容を想定していて、こういった業者を想定されているのか、その部分を教えてください。

スマートエネルギー課長

具体的に御提案いただきたい内容としては、車両の運用の方法やそういったシステムの部分です。それから、車両の利用促進のための方策、それから導入した事業者の方が電気自動車も併せてどのように使うか、その辺りの御提案を頂きたいということと、あとはやっぱり地元の観光事業者をどれだけ巻き込んでいけるか、この辺りがポイントになっているかと思っております。具体的に想定される事業者としては、やはり車がないといけませんので、レンタカー事業者、あるいは最近ですとカーシェアリング事業という形で、例えば時間貸しの駐車場なんかの事業者もカーシェアリングなんかやっていますが、そういったところを想定しております。

また、そういったところとホテルや旅行代理店が組んでシェアするというようなことも想定しております。

谷口委員

それで、今回は箱根ということですが、箱根を選んだ理由はどうしてですか。

スマートエネルギー課長

地元の声を聞きますと、やはりスポット間の移動のニーズというのが非常に高い。あとは、少し離れたところだと御殿場とか、あるいは三島というようなキーワードも出てきたんですが、そういったところへの移動のニーズがあるということでございますので、箱根を選んだところでございます。

谷口委員

箱根町との協議はどうなっているのですか。

スマートエネルギー課長

箱根町は、従前から電気自動車の普及に大変熱心なエリアでもありますので、すでに事前の協議という形で御相談申し上げているところでございます。

谷口委員

箱根はバスとか、そういった電車も比較的便利な方なんですけど、そういう中で電気自動車の需要というのはきちんと見込めるのか、きちんと採算が合っているのかどうか、その辺についてお伺いします。

スマートエネルギー課長

特に観光施設等からお聞きしている話ですと、特に何度もリピーター的に箱根を訪れているお客様からは、やっぱり自分ならではの観光スポットを巡りたいとか、あるいはバス等の時間を気にせず、温泉等をゆったり利用したいというお話もあるようなので、ニーズはあるというふうに踏んでいるところでございます。

谷口委員

それで、具体的にこれやると、方法によって決まってくるんでしょうけど、例えば横浜市内だとちょいモビという形で、2人乗りのものが結構注目を浴びていますが、そういう部分はきちんとした乗用車タイプのものだとか、その点についてはいかがでしょうか。

スマートエネルギー課長

やはり箱根は山間部ですので、通常の乗用車タイプのことを考えているところです。

谷口委員

あとは、坂が多いので、エリア内であれば電池はきちんともつという理解でよろしいですか。

スマートエネルギー課長

ある程度限定的なエリアでということですので、しっかり充電ができていれば十分距離は大丈夫だと考えております。

谷口委員

充電ですが、たしか急速充電器は箱根町役場にあったと思うのですが、それ以外に今このエリアにあるのか、今後その辺の充電はどういうふうにしていくのか、その辺をお伺いできますか。

スマートエネルギー課長

今回の事業では、導入していただく観光施設などでは、いわゆる普通充電のタイプのもをを導入していただくことを考えておりますので、車を導入していただくところには、充電スポットがあるところはもう既存のものを使っただけで結構ですし、ないところでも国の補助制度も、設置の部分で、使っただけながら普通充電を導入していただければこの事業に参加していただくと考えております。

谷口委員

今回の予算額として914万8,000円を計上されていますが、レンタル料につ

いては利用者が負担するということだと思うんですが、この約900万円の予算はどのような費用に使うのか、最後に教えてください。

スマートエネルギー課長

先ほど申しあげました充電設備を整備する必要がある場合は、そういったものに充てていただくことも想定しておりますし、それから当然、利用促進のための広報の関係であるとか、あるいは新たに人を配置しなければいけないときの人件費なども考えているところでございます。

併せまして将来の自立的な運用に向けて、この事業を通じたいろいろな課題等の検証についても調査的な形でまとめていただくと、そういった費用についても考えているところです。

谷口委員

調査的な費用についてのことですが、スケジュール的にどの程度でそういう課題をまとめていかれるのか教えてください。

スマートエネルギー課長

新年度の中で一定のスケジュールの中で持っていきたいと思っているのですが、その結果を見て、さらに再来年度以降なども考えていきたいというようなことも考えておりますので、まずは新年度の1年間の中で、調査の結果などもまとめる形で考えております。

谷口委員

私も、多くの方がすぐに購入というのが難しい中で、電気自動車を経験することで体験をしていただく機会をつくるというのは大事なことだと思いますので、是非しっかり取り組んでいただいて、モデル事業として成功させて、しっかりと採算がとれるような形で頑張ってくださいと思います。

意見発表

谷口委員

公明党県議団として意見、要望を申し上げます。

まず、さがみロボット産業特区について申し上げます。本会議の代表質問で我が会派の鈴木団長がさがみロボット産業特区の次なる展開について幾つかの提案を行い、いずれも知事から前向きな答弁を頂きました。提案した災害対応ロボットの先行導入やロボットの正しい使い方を県民に伝えていくための普及指導員制度の導入、さらに県民と生活支援ロボットとの共生条例など、全国をリードする取組を進めるよう要望いたします。

次に、燃料電池自動車の普及について申し上げます。

普及に向けては、関係企業と行政との連携が認められますロードマップを作成し、そうした取組を積極的に進めるよう要望いたします。

また、電気自動車地域導入促進モデル事業については、モデル事業としてスタートしますが、地元の協力を得て、採算性が確保できる継続的な事業に発展させるよう要望いたします。

最後に、かながわしごと支援センターについて申し上げます。今後、少子高齢化が進展していく中で、元気で働く意欲がある高齢者の方々に働く場を広く

提供していくことは非常に重要なことでもあります。今後、かながわしごと支援センターの取組を着実に推進し、高齢者をはじめ全ての県民の方々が生き生きと働くことができるよう要望をいたします。

以上、意見を申し上げましたが、当常任委員会に付託された諸議案に賛成をいたします。